

日本アドバンストアグリ 株式会社

http://www.adv-agri.co.jp/

所在地	滋賀県長浜市末広町617-1	TEL&FAX	0749-53-0101	077-588-6122
代表者	代表取締役 辻 昭久	創設年月日	2006年4月3日	資本金 4,500万円
				従業員数 6人

事業内容

日本アドバンストアグリ株式会社は『次世代の農業から「健康と美容」を科学する』をテーマに、人工光を用いた機能性野菜の栽培技術を活用して、アイスプラント(商品名「ツブリナ」)や塩生プルビエ(商品名「ロザリナ」)の生産販売と、これら機能性野菜を利用した健康食品事業を展開している。

機能性野菜の栽培は、独自の照明技術(HEFLや3波長ワイドバンドLED)を応用した植物工場で行い、植物にとって好適環境とストレス環境を特定のバランスで制御することで、生育を促進しながら、かつその植物が本来持つ栄養を大幅に高めることに成功した。

同社が生産する「ツブリナ」には、インスリン抵抗性を緩和する「ピニトール」が含まれ、この成分を用いた栄養補助食品として「グラシトール」を販売している。また、「ロザリナ」にはアレルギーを緩和する α -リノレン酸が豊富に含まれており、この野菜粉末は栄養補助食品「アレルギーバリア」として製品化している。



知的財産活用事例

日本アドバンストアグリ株式会社のテーマである『次世代の農業から「健康と美容」を科学する』という事業は、グループ会社であるツジコー株式会社と共同で実施している。事業にかかる技術開発(装置・設備の開発、栽培技術の開発)はツジコーが担い、それらを用いた生産と事業展開は同社が担う形にそれぞれの企業が担う事業の特性に合わせて区分している。知的財産に関しての区分も同様に、装置を含めた生産に関する知見はツジコーが主となって知的財産化を促進し、事業展開に必要な商品ブランドの確立のための活動(商標の取得・維持)については同社が主となって実施している。

このように、グループ間で知的財産における役割を明確にすることで、それぞれの主体的な活動に繋がるとともに、大学や公的研究機関との連携もスムーズに実施できる。また、出願における費用負担の課題もクリアすることができ、開発と権利化の促進につながる事が可能となっている。これらの知的財産は、機能性野菜の栽培に活用され、健康食品事業の基本技術の一つとなっている。

知的財産の創出や活用に関する取組

これまで技術開発について、大学や公的研究機関に相談し、連携先を見つけることで、実施してきた。それらの取り組みについては、国の補助金等を活用し、開発活動の中で得られた成果が知的財産として蓄積されてきた。また、それら成果の事業化の取り組みの中では、他社との連携も行っており、それぞれの経験と試験を持ち寄ることで新たな知的財産の創出につながっている。

これら知的財産の権利化するかどうかについては、その内容から判断し、栽培技術や生産技術など製造プロセスにかかる部分や、購入した設備や装置の運転パラメーターについては、特許性の視点や侵害の認定の難しさからノウハウとして秘匿することになっている。

今後、事業拡大を行う上で海外展開も視野に入れているが、海外で事業を実施するためには少なくとも特許を保有していることが必要と考えており、海外出願も含めた取り組みを進めている状況である。

起業を目指す人への知的財産に関するアドバイス

特許出願・権利維持には大きなお金と時間がかかるため、費用対効果を十分考えて進めるべきである。特許は出願するだけでは意味がなく、どう活用していくかまで含めて検討することが必要と考える。さらに言えば、事業化するうえにおいては、ブランド作りを目指した活動を意識して進めていくほうが成功の可能性が高い。